

岐阜県社会福祉法人による 地域における公益的な取組 事例集



社会福祉法人 岐阜県社会福祉協議会

—ぎふ社会福祉法人地域公益実践推進事業「結プロジェクト」—

岐阜県の社会福祉法人による地域における公益的な取組事例集

目 次

	はじめに	1
事例 1	地域の子育て世帯をささえる取り組み ～「子育てサロン」と「どんぐりくらぶ」～ 社会福祉法人カトリック名古屋教区報恩会（中津川市）	2
事例 2	卒園後の安定した生活を支援する ～児童養護施設退所者アフターケア～ 社会福祉法人擁童協会（大野町）	3
事例 3	子どもの楽しめる居場所を目指して三者が連携 ～子どもの居場所づくり事業「青春サポーターよつば」～ 社会福祉法人岐阜市社会福祉協議会（岐阜市）	4
事例 4	利用者送迎用車両を活用した高齢者の支援活動 ～「パサーダランチ」と「お買い物ツアー」～ 社会福祉法人北農（大垣市）	5
事例 5	施設の既存設備や機能を地域に開放 ～身も心もすっきり「入浴サービス」～ 社会福祉法人高山八寿会（高山市）	6
事例 6	地域循環型就労ネットワークの構築 ～生活困窮者の就労を地域で支える「縁カレッジ」～ 社会福祉法人瑞穂市社会福祉協議会（瑞穂市）	7
事例 7	判断能力が不十分な方や家族の相談に 4 施設で対応 ～法定後見制度利用へのつなぎ支援～ 社会福祉法人美谷会（関市）	8
事例 8	障がい児・者とその家族のつどいの場 ～みんなで遊ぼう「おもちゃ図書館かみなりくん」～ 社会福祉法人岐阜羽島ボランティア協会（羽島市）	9
事例 9	気軽に相談、気軽に交流 地域の拠り所 ～市内 4 か所で展開「お散歩カフェ」～ 社会福祉法人大垣市社会福祉協議会（大垣市）	10
事例 10	地域交流スペース（地域共生社会をめざして） ～みんなの居場所「ばあちゃんち」～ 社会福祉法人高山市社会福祉協議会（高山市）	11
事例 11	地域の人たちが気軽に集える居場所づくり ～アンテナショップぶなの木 セルプの店「町家千代」～ 社会福祉法人ぶなの木福祉会（郡上市）	12
事例 12	喫茶コーナーを地域のつながりの場として活用 ～ふれあいいきいき「笠松園サロン」～ 社会福祉法人羽島郡福寿会（笠松町）	13
事例 13	子どもたちと参加者と保育士がつくる楽しいひととき ～毎月開催「かさほサロン」で地域とのつながりを～ 社会福祉法人笠松中央福祉会（笠松町）	14
事例 14	関係団体とともに創る地域交流行事の実践 ～「夏祭り」などの行事を通じた地域と施設の絆～ 社会福祉法人千代田会（岐阜市）	15
巻末資料	社会福祉法人による「地域における公益的な取組」の推進について 社会福祉法人の現況報告書へ「公益的な取組」の記載を 岐阜県内社会福祉法人の地域における公益的な取組一覧	16 17

は じ め に

平成28年4月に施行された「社会福祉法等の一部を改正する法律」により、「地域における公益的な取組」を行うことが、すべての社会福祉法人の責務として規定されました。このことは社会福祉法人が多様で複雑化する福祉ニーズに対応することが期待されており、これまで以上に地域福祉の中心的な担い手となることが求められているといえます。

こうした背景を受けて、本会におきましては、平成30年度より県内の社会福祉法人が連携・協働し、地域における公益的な取組を推進できるよう、各種別協議会、市町村社会福祉協議会等とともに、「ぎふ社会福祉法人地域公益実践推進事業（結^{YUI}プロジェクト）」を実施しております。

本事例集は、この結プロジェクトの取組の一環として、県内約250の社会福祉法人に対して事例を募集し、取組事例をとりまとめさせていただいたものです。また、昨年度に実施したアンケート調査から、県内の社会福祉法人が実施している公益的な取組の一覧も掲載しており、これからの取組実践の参考にさせていただき、企画・検討等を行う際の参考資料としてご活用いただければ誠に幸いです。

最後に、事例集発行にあたり、原稿作成にご協力いただきました各法人の関係者の皆さまに深く感謝申し上げますとともに、今後の岐阜県での「地域における公益的な取組」の展開促進に向けたより一層のご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成31年3月

社会福祉法人岐阜県社会福祉協議会

中津川市

地域の子育て世帯をささえる取り組み

～「子育てサロン」と「どんぐりくらぶ」～

取組の目的や経過

出生率が低水準にあるなか、児童虐待対応件数は増加しており、なかでも乳幼児の虐待が多い。また、育児で孤立してしまっている保護者が多いという。そこで、同法人では、身近に相談できる場とされるよう法人内の保育士と連携し、麦の穂会館において、遊びを通じた活動を中心に子育てを支える取り組みを開催している。



▲手作りの遊び道具は子どもたちに人気です



▲色のついた粘土で手形を作製中

取組内容

地域の乳幼児や未就園児の子どもと保護者を対象に「子育てサロン」を毎月1回実施。ふれあい遊びや手遊びなどを行っており、市の保健師、栄養士と子ども家庭支援センターの心理士等による「乳幼児なんでも相談」も同時開催。子どもの成長発達、母親の養育を見守る。「どんぐりくらぶ」では、未就園児の親子には一緒に活動を通して、楽しみながら乳幼児への関わり方を知る場となっている。地元の小学生には、工作教室等を企画し、体験を通じた子どもの育ちを応援している。

主な経費：
施設経費、消耗品費等

主な財源：
法人独自財源



取組の効果

「子育てサロン」では、相談員とだけでなく保護者同士で談笑するなどサロンが友達づくりの場となっており、多くの方に継続して参加いただいている。「どんぐりくらぶ」では、工作や粘土遊び、お菓子作り等を実施しており、楽しんでもらうことだけでなく、遊びの中でどうやったらうまくできるかを模索したり、できたことを保護者へ伝える方法を考えたりして、子どもの成長を促す場となっている。



職員の声

- ◆子どもたちがさまざまな体験を楽しんでいる姿や工夫している姿がとても素敵。
- ◆暗い表情だったお母さんが、子育てサロンの回を重ねるごとに明るくなり、周囲との関わりが広がっていくことを嬉しく感じる。

保護者の声



- ◆他の保護者の方の子どもへの接し方を見て自分もこんな風に接したらいいんだ、これで大丈夫なんだと思い、気持ちが楽になった。

法人名

社会福祉法人 カトリック名古屋教区報恩会

本部所在地／中津川市千旦林1468-51

経営施設種別／児童養護施設、乳児院、子ども家庭支援センター

職員数／61名



大野町

卒園後の安定した生活を支援する

～児童養護施設退所者アフターケア～

取組の目的や経過

児童養護施設を退所した子どもたちが地域社会のなかで自立していくためには、様々な生活・就業上の問題を抱えながら自らの努力で生活基盤を築いていかなければならないことが多い。

ひとり暮らしを始める卒園生の生活不安が多いことや、専門学校や短大・大学への進学が増えている状況のなかで、中卒で退所することになる子どもたちも存在し職場への定着率が芳しくないといった現状があり、地域社会における社会的自立の促進を図ることを目的として開始した。

取組内容

卒園生の自宅や就労先への訪問を行い、就労と生活の両立や人間関係に関わる相談に乗ったり、社会常識や生活技能等を修得するための支援を行っている。時には就職面接等のアドバイスや医療機関等への同行訪問も行う。各種関係機関と連携を取りながら卒園生に対してよりよい支援を行っている。



▲就職やひとり暮らしを控えた子どもたち向けに社会常識や生活技能等を修得する「自立支援セミナー」に参加

主な経費：
人件費・交通費・
食材費等

主な財源：
法人独自財源



取組の効果

（事例）就労していなかった卒園生は引きこもりがちであった。アパートの管理人、市社会福祉協議会、市役所、警察、保健センター等と連携し、家庭訪問を行い、生活保護申請、アパートの退去手続き、入院手続き等の支援を実施した。のちに体力が回復、精神的にも安定して自立に向けた訓練を受けている。早期の段階での関係機関の連携が重要であると感じさせられた。



卒園おめでとう
ずっと応援していきます



職員の声

- ◆元気で過ごしている卒園生たちの姿を見ると心が和みます。
- ◆施設だけで卒園生を支援していくのは難しいため、関係機関と連携を取りながら可能な限り関わっていききたい。

卒園者の声



- ◆困ったときなどに今までお世話になった職員さんが声をかけてくれるので頼りになる。
- ◆職員さんの支援を受けて、少しずつ自立できるように頑張っている。

法人名

社会福祉法人 擁童協会

本部所在地／揖斐郡大野町大字寺内624

経営施設種別／児童養護施設、保育所、障害者支援施設、
相談支援事業所

職員数／173名



岐阜市

子どもの楽しめる居場所を目指して三者が連携 ～子どもの居場所づくり事業「青春サポーターよつば」～

取組の目的や経過

岐阜市社会福祉協議会では生活困窮世帯の家計状況の根本的な課題の把握と生活再建を担っている。そんな中、岐阜市母子寡婦福祉連合会との協働事業である「ひとり親家庭等への中学卒業生激励事業」をより公益性・有用性の高い事業にしようと、学習習慣と他者との交流に焦点を絞った居場所づくりの方向性を模索し、実施場所の検討を進めたところ社会福祉法人岐阜老人ホームより協力を得ることにつながり、三者による子どもが安心できる居場所づくり事業が企画された。

取組内容

毎週火曜日17～20時半、小学3年生～中学3年生のひとり親世帯。施設が使用しない時間帯に喫茶室及びホールを使用。サポーターは市社協と母子会が募り、学習支援コーディネーター、教員OB、社会人や学生が子どもたちをサポート。対象の子どもに親以外の大人とのふれあう機会を提供し、孤立を防ぐと共に精神的な成長を促している。また、これをきっかけに施設行事に子どもやサポーターが参加し、施設利用者や施設職員との交流にもつながっている。

主な経費：
サポーター謝金、
教材費、文具など

主な財源：
岐阜市母子寡婦福祉連合会、
岐阜老人ホーム、法人独自
財源、岐阜県社協助成金



▲平成30年7月24日に開校

▲三者共催でチラシを作成

取組の効果

保護者からは普段おとなしく静かな子どもが、「よつば」では大きな声で笑っていることに驚いたなどの声も聴かれた。特に学習以外の余暇の時間では、子どもは子ども同士や大人とゲームを楽しみ、多くの交流経験を積んでいる。この事業が子どもたちの社会性や自主性を育んでいます。



提供施設の声

- ◆施設の空きスペースを有効に活用することができています。今後もこの居場所を続けていきたい。また、他の施設でも様々な取り組みが増えればいいと思います。

保護者の声



- ◆毎週参加することを楽しみにしていて、家でも「よつば」の話をしてくれたり、学んだゲームをやったりして楽しんでいます。

法人名

社会福祉法人 岐阜市社会福祉協議会

本部所在地／岐阜市都通2-2 岐阜市民福祉活動センター内
経営施設種別／社会福祉協議会
職員数／244名



大垣市

利用者送迎用車両を活用した 高齢者の支援活動

～「パサーダランチ」と「お買い物ツアー」～

取組の目的や経過

大垣市内においても、近年高齢化が進み、ひとり暮らし高齢者や老々世帯が増加している。大型商業施設が多数進出することで小規模のスーパー等が撤退し、車を運転できない高齢者等は大変不自由な状況である。そこで、同法人のデイサービスで使用している送迎用車両を活用して、地域の高齢者を支援できないかと思い、平成29年度より今回の取り組みを始めた。



▲施設で作られた温かい昼食が提供される

取組内容

ひとり暮らし高齢者や車を運転できない高齢者のみ世帯を対象に、施設送迎車両で自宅までお迎えし、施設で手作りの昼食を召し上がっていただいた後、近くのスーパーなどでお買い物を楽しんでいただく。参加費は昼食の食材の実費のみで利用できる。近隣の主婦をアルバイトとして雇用しており、当日の運営スタッフとしてお手伝いいただいている。

主な経費：
人件費（アルバイト代）、
燃料費、広報費、調理費等

主な財源：
法人独自財源



取組の効果

日ごろ、買い物に行くことが難しい方にとっての大切な買い物の時間である。利用者は1時間程度の間に思い通りの買い物を楽しんでいる。また、送迎や昼食、買い物を通じて高齢者同士のコミュニケーションの場ともなっている。今まで遠い存在であった施設が、身近な存在と感じていただけるようになった。



職員の声

- ◆回数を重ねることにより、地域に活動の取り組みが伝わり、市内の遠方の方からの要望がある。うれしいことであり回数等について検討したい。

参加者の声



- ◆みんなと一緒に買い物できることは楽しく、毎回参加することを楽しみにしています
- ◆買いたいものを自分で選べて、とてもありがたい。助かっています。

法人名

社会福祉法人 北 晨

本部所在地／大垣市北方町2-70-1

経営施設種別／特別養護老人ホーム、デイサービス、
ホームヘルプサービス

職員数／103名



施設の既存設備や機能を地域に開放

～身も心もすっきり「入浴サービス」～

取組の目的や経過

地域において障がい等により介護がなければ入浴をすることが困難な方を対象に、特別養護老人ホームにある特殊浴槽の設備や機能を地域に開放することを目的に平成16年の設立以前より実施してきた。当初は、他事業所が休業となる年末年始に限り、快適に過ごしていただくために企画した事業であったが、申込者にいつでも快適に過ごしてもらえるよう通年で利用いただけるようにしている。

取組内容

利用できるのは、障がい等により入浴時に介護が必要な方に限り、毎週日曜日から金曜日の10～11時及び14時～15時で事前申込制としている。

平成28年より、もっと気軽に利用してもらえるよう、利用料を600円から200円に大幅に改訂している。

主な経費：
消耗品費、入浴後の飲み物代（既存の設備で対応）

主な財源：
利用者1人あたり200円、法人独自財源



取組の効果

入浴サービスの情報は、HPに掲載したり、居宅介護支援事業所の介護支援専門員等にも周知し、対象者やその家族へ案内している。

日曜日や年末年始でも利用できることから、年末年始でも3～4名が利用される。毎回利用される方のほか、新規での利用もあることから継続して行っていきたい。



職員の声

◆ 既存の設備を入居者が使わない時間に活用できるため、大きな負担とはならず、利用者の方に喜んでいただいている。



利用者の声

◆ 自宅では自分ひとりではお風呂に入ることができない。いつもはデイサービスで入れてもらっているが、年末年始などの休みのときにはこちらが利用できて非常にありがたい。

法人名

社会福祉法人 高山八寿会

本部所在地／高山市久々野町久々野1202

経営施設種別／特別養護老人ホーム、養護老人ホーム

職員数／80名



瑞穂市

地域循環型就労ネットワークの構築

～生活困窮者の就労を地域で支える「縁カレッジ」～

取組の目的や経過

生活困窮者に対する就労支援を行うなかで、離転職を繰り返す方が多くいる。課題は、適切な治療やメンタルケアの不足によるもの、コミュニケーション能力等の社会的スキルの欠如、障がい特性などさまざまであるが、これらの課題の解決のためには、「就労前の準備期」「就職活動期」「就労後の定着支援期」において切れ目ない支援が必要である。そこで社会福祉法人や企業に協力を募り、瑞穂市内の人材を地元で活用する取り組みを行うこととした。



取組内容

平成30年7月から、障がい者の就労支援やカウンセリングを行っている企業と連携し、対象者の様々な悩み相談に応じる「縁カレッジカウンセリング」を開始。9月からは、市内にある3つの社会福祉法人や2つの企業に協力をいただき、短期職業実習（「縁カレッジトレーニング」）の受け入れ先として2名が実習を受け、1名が就労に結び付いている。

主な経費：
諸謝金、消耗品費、
印刷費、通信費、会議費等

主な財源：
法人独自財源、
県社協助成金



▲カウンセリングを受けて
仕事や生活を振り返ります

取組の効果

平成30年12月時点で、縁カレッジカウンセリングでは4名の相談者にカウンセリングを行い、うち3名が就労に結びつき、縁カレッジトレーニングでは2法人で2名が介護施設で短期職業実習を受け、うち1名が就労している。相談者のなかには、生活保護の申請を検討していたが、縁カレッジを利用したことで、自立の意識が芽生え、働くことの意義を確かめることができたと話さ方もいる。



参加企業の声

- ◆生活に困っている人がいて、採用することでその人の生活が安定するのであればどんどん受け入れさせてほしい
- ◆採用した人がよく働いてくれて、戦力になってくれており、助かっている



参加者の声

- ◆縁カレッジカウンセリングを受けてからは頭の中が整理され、自分らしく生きようと思えた

法人名

社会福祉法人 瑞穂市社会福祉協議会

本部所在地／瑞穂市別府1283
経営施設種別／社会福祉協議会
職員数／63名



判断能力が不十分な方や 家族の相談に4施設で対応

～法定後見制度利用へのつなぎ支援～

取組の目的や経過

判断能力が十分でない利用者や地域住民が、成年後見制度を円滑かつ効果的に利用できるよう同制度へのつなぎ支援を行い、制度の利用が個々の権利の尊重と擁護につながり、個々が安心して生活が営めるよう制度利用への促進を図る。

経緯としては、知的障がいのある利用者が多いなか、本人にかかる財産の使いみちについて、保護者を含む兄弟姉妹間の公平な解決への対策として、職務的立場を離れて制度利用の促進を図ることを目的として始まり、同法人の4施設において相談対応を行っている。

取組内容

平成27年度より実施要綱を定め、施設利用者及び地域住民を対象とし、ホームページで公開募集を開始。社会福祉士等の資格を有する5名による「法定後見支援委員会」を発足、制度へのつなぎ支援を開始した。

それぞれのケースについて話し合い、各施設利用者のなかで権利擁護が必要な方を洗い出した結果、9名が該当し、44名が既に制度利用中であった。委員会において9名のうち3名について制度利用を促し、うち1名は利用開始となった。

主な経費：
職員の旅費交通費
(これまでに11回分
35千円を支出)

主な財源：
法人独自財源



▲定期的に打ち合わせを行い相談対応について話し合います



取組の効果

弁護士による事例講義を得て、成年後見制度の利用に係るアドバイス支援のほか、親族による多額の預金の引き出しのチェック等、職員の施設利用者に対する権利擁護の意識が高まっている。



職員の声

- ◆施設の利用者にあっても、後見制度が必要なケースについて家族の了承を得ることが難しい。
- ◆法人内であっても、つなぎ支援にはかなりの労力が必要である。まして外部からの相談となれば更なる労力を費やすと想像される。根気強く取り組んでいきたい。



利用者の声

- ◆気楽に相談するところができ良かった。
- ◆良い取り組みであるので、もっとPRするべきである。

美谷会は
全ての人に寄り添い、
人と人の心(むすびつき)を
大切に、未来に向けて共に歩みます。

法人名

社会福祉法人 美谷会

本部所在地／関市武芸川町谷口2221-1（主） 各務原市那加西市場町7-285-1（従）
経営施設種別／特別養護老人ホーム、児童養護施設、障がい者支援施設、 養護老人ホーム、デイサービス、
ケアハウス、地域包括支援センター、障がい児通所支援、障害（児）者相談支援等
職員数／297名

羽島市

障がい児・者とその家族のつどいの場

～みんなで遊ぼう「おもちゃ図書館かみなりくん」～

取組の目的や経過

昭和61年、障がいのある子どもたちにおもちゃや絵本と触れ合う機会を提供したいという想いから、数人のボランティアで民家の空きスペースを活用して「おもちゃ図書館」を始めた。

取組内容

おもちゃ図書館では、障がい児とその家族を対象に、おもちゃや絵本を貸し出している。また、ボランティアによるおもちゃ製作を毎月第1金曜日に実施。これまでに布絵本、ままごとセット、しかけのあるおもちゃなどを製作。素材（主に布やフェルト）とデザインにこだわったおもちゃづくりに取り組んでいる。運営には子育てひろばと児童デイサービスのスタッフが関わっており、おもちゃの図書館全国連絡会や市の子育て健幸課など必要に応じて関係機関と連携し、おもちゃ図書館活動を通じた障がい児支援にあたっている。



▲月～土曜の9時半から14時半まで開館



▲ボランティアの手で作品が作られます

主な経費：
おもちゃ購入費、
消耗品費、広告費等

主な財源：
法人独自財源



取組の効果

おもちゃ図書館は利用者同士の交流の場でもあり、障がい児とその家族が抱える不安や悩みの共有、既存のサービスへの不満など意見が集まる。利用者からの声に耳を傾け、さまざまな障がい福祉サービスの提供や施設の増設に積極的に取り組み、制度やサービスへの利用を促し本人の活動支援と家族の不安解消につなげてきた。

しかし、適切な制度やサービスを受けられず社会的孤立を生むケースや緊急時の受入困難など、障がい児者が安心して暮らせる社会環境はまだ不完全であるといえる。今後は、障がい児者とその家族の居場所のひとつでもある「おもちゃ図書館」が地域生活支援拠点等の面的整備の一部として活用できるようなしくみを考えていきたい。



製作ボランティアの声

◆子どもたちが喜ぶ顔を想像しながら、一針一針ていねいに縫っています。

親子の声



◆本当にかわいくて素敵なおもちゃがいっぱいあるので、子どももお気に入りです。

法人名

社会福祉法人 岐阜羽島ボランティア協会

本部所在地／羽島市竹鼻町狐穴719-1 はしま福祉サポートセンター

経営施設種別／障害福祉サービス事業、相談支援事業、障害児通所支援事業、児童自立生活援助事業、子育て短期支援事業、地域子育て支援拠点事業、病児・病後児保育事業、子育て援助活動支援事業、小規模住居型児童養育事業 等

職員数／約200名



大垣市

気軽に相談、気軽に交流 地域の拠り所

～市内4か所で展開「お散歩カフェ」～

取組の目的や経過

大垣市では、自治会長や民生児童委員、福祉推進委員などが中心となり地域での見守り活動を展開している。その中で認知症の方の徘徊や行方不明事案が増え、家族や見守り支援者、地域住民が気軽に相談したり交流できたりする場が欲しいとの声が挙がっていた。そこで専門職への相談や地域住民同士の交流ができる拠り所を目指して本事業を開始した。



▲古民家を改修した会場もある

取組内容

「お散歩カフェ」は市内4か所で週1回～月1回、公民館や空き家、既存施設等で開催。地域住民によるボランティアや専門職が協働して運営。地区社協や連合自治会の協力を得て、チラシの配布や民生児童委員定例会やサロン・研修会での周知を実施。気軽に相談や交流ができるよう、お茶や茶菓子を提供。専門職が訪れた地域住民と会話しながら福祉の疑問に答える。相談対応や認知症予防や介護予防、健康に関するイベント等を実施、相談から専門機関へ繋がった事例もある。

主な経費：
茶菓子など
消耗品費など

主な財源：
1人100円の参加費、
法人独自財源



▲第1号は平成29年6月

取組の効果

福祉や健康に関する相談を目的に来館される方はもちろん、閉じこもり予防としてひとり暮らし高齢者等も参加し、専門職と交流することで、「今、気を付けて欲しいこと」をタイムリーに発信することができた。相談は、介護・健康に関するもの以外にも幅広い内容のものが、「ここに来れば相談できる」という安心感を地域の中に根付かせることができた。今後は市内20地区社協全てに整備できるようにお散歩カフェ事業の推進をしていきたい。



ボランティアの声

- ◆ 地域の方と関わるのができて嬉しい。ボランティアをすることで社会に参加している気がして自分に自信がついた。

参加者の声



- ◆ 明るい雰囲気の中で専門職と気軽に相談できる。専門職の方から役に立つ話が聴けるからありがたい。

法人名

社会福祉法人 大垣市社会福祉協議会

本部所在地／大垣市馬場町124 大垣市総合福祉会館内
経営施設種別／社会福祉協議会
職員数／284名



地域交流スペース(地域共生社会をめざして)

～みんなの居場所「ばあちゃんち」～

取組の目的や経過

高山市社協では、別法人が運営する地域交流館2階（1階はよって館^{そら} 宙^(※)）を拠点とした地域の居場所づくり「ばあちゃんち」の取り組みを実施している。

本事業は、対象の枠は設けておらず、地域の子どもから大人まで幅広く誰でも参加できる。本会と地域ボランティアや別法人等と連携を図りながら、地域の方々に寄り添った地域共生社会を目指している。

※よって館 宙…高山市社協が実施している空き店舗を活用したサロン事業



▲今日の夕ご飯会のメニューはハヤシライス。和やかな時間が流れています。

取組内容

開催日：月2回 第1、3木曜日 開催時間：16:00～19:30

内 容：第1木曜日…茶話会 第3木曜日…夕食会

15:00～ 地域ボランティアさんを中心に食事の準備

16:30～ 小学生や幼児や親、地域の方が徐々に集まり、宿題をしたり、絵をかいたり、それぞれが自由に過ごす

18:00～ みんなで夕食、夕食後もおしゃべりなど

19:30～ 後片付け

主な経費：
食材費、消耗品、
備品代など

主な財源：
法人独自財源、
県社協助成金



取組の効果

運営を「ばあちゃんズ^(※)」に任せたことで、枠にとらわれず、オープンで温かな居場所をつくることができている。また、本会が運営する高山市福祉サービス総合相談支援センターと連携し、生活困窮世帯や引きこもりの社会復帰の支援を行うことができた。また、職員とばあちゃんズが都度振り返りを行い、利用者一人ひとりを大切にすることをモットーに関わりをつくってきた。

参加者の年齢層も幅広く、多世代交流の経験の場ともなっており、地域共生社会を目指した人と人とのつながりが少しずつつくりだされている。ばあちゃんズの寄り添う温かな力により現在ではなくてはならない居場所となっている。

※ばあちゃんズ…児童関係の仕事の経験者や、保育士、調理師など多彩なメンバーで構成される地域ボランティア



ボランティアの声

- ◆はじめの頃は、緊張していた参加者の方も、今では食事の準備など手伝ってくれるなど積極的に関わっていただいている。私たちとしても充実した時間です。

参加者の声



- ◆ここに来てみんなとしゃべったり、ごはんを作ったりできて楽しい。
- ◆勉強を教えてもらうだけでなく、一緒に遊んでくれるのがすごくいい。

法人名

社会福祉法人 高山市社会福祉協議会

本部所在地／高山市昭和町2-224

経営施設種別／社会福祉協議会

職員数／169名



郡上市

地域の人たちが気軽に集える居場所づくり

～アンテナショップぶなの木 セルプの店「町家千代」～

取組の目的や経過

「町家千代」は、郡上八幡の中心地大手町通りにある昔ながらの町家を生かした障害福祉事業所のアンテナショップ。その一角に観光客や近所の人々が気軽に集えるスペースを設け、地域のニーズの把握や社会福祉法人の活動紹介、障がい者理解の啓発活動を行うことを目的に本事業を開始。地域の人たちの交流スペースとなり、自主的な活動の場へと展開を始めている。



▲この日は絵手紙を作成
みんな集中しています



▲法話サロンでは、地元のお寺の
ご住職にボランティアとしてお
越しいただきました

取組内容

平成28年4月より各サロンを地域の人たちが中心となり週1回開催。法話、子育て、絵手紙、憲法、体操などの取り組みを行い、ボランティアの方に講師を担っていただいている。平成29年4月からは、月1回「ごちゃまぜ食堂」という食事会を開始。ひとり暮らしや外出が億劫になっている人に声をかけ、地域の人とともに作った食事を一緒に食べる機会を設けた。当初は法人スタッフのみで準備を行っていたが、現在では地域の人たちも一緒に行っている。

主な経費：
材料費、店舗維持管理費

主な財源：
材料費は参加者自己負担、
法人独自財源



取組の効果

サロンには毎回約15名の参加があり、張り合いや楽しんでいるとの声が聞かれる。サロンの運営は参加者が主体的に行っており、法人の役割は、場所の提供と参加への誘導である。ごちゃまぜ食堂には平均35名が参加。多くの人と一緒に食事を食べる楽しみの場となっている。サロンやごちゃまぜ食堂は、参加される地域の人たちからは好評を得ており、このような集まりは、引きこもりの予防や地域からの孤立防止に役に立っている感触を得ている。今後はより多くの人が参加できるような取り組みや、新しいプログラムを検討していきたい。



観光客の声

- ◆ 地元の人と気楽に話ができたり、地元の情報が得られるこんないい場所はおもしろいし、来てよかった。セルプについても知ることができた。

参加者の声



- ◆ みんなが集まって食事をする機会があるのは楽しい。もっと開催してほしい

法人名

社会福祉法人 ぶなの木福祉会

本部所在地／郡上市白鳥町白鳥33-17

経営施設種別／障害福祉サービス事業所（生活介護・就労継続支援B型、
共同生活介護、短期入所、計画相談）

職員数／65名



笠松町

喫茶コーナーを地域のつながりの場として活用

～ふれあいいきいき「笠松園サロン」～

取組の目的や経過

施設として地域の方に利活用してもらう場を検討していた。笠松町社協の協力のもと、ボランティアネットワークづくり支援事業を利用して、施設の喫茶コーナーでのサロンが実施可能となった。オープンに向け、町内会長、役員、民生委員と何度も会議や説明会を重ねた。また、大学の講師をお招きし、サロン関係者、施設職員、地域住民の方が出席し、社会福祉施設等における地域貢献活動に向けた研修会を開催した。

取組内容

毎月第2金曜日に開催。1階の喫茶コーナーを利用。サロンの運営は、最初の1年間は笠松町社協と共同で、町内会長をはじめ、役員の方、民生委員さんと施設職員が協力して開催。施設の専門性を活かして、介護福祉士、看護師や管理栄養士による介護や健康に関する講話などを行っている。

主な経費：
飲み物代、
作品づくり等の材料費

主な財源：
1人150円の参加費、
ボランティアネットワ
ークづくり支援事業助成金、
法人独自財源



▲開催前に地域向けの研修会を開催



▲町の役員や民生委員と一緒に準備

取組の効果

町内の方との交流、情報共有を密に行えるようになり、サロン開催日以外でも地域の方の喫茶利用率が増加。介護の専門性を活かし、サロン開催時に介護で困っていることに関して相談に乗り、デイサービスやショートステイのサービスにつなげることができた。また、夏には祭りを開催し、町内会の役員、民生委員の方と共に屋台などを出し、町内の方、園内のお年寄りにも参加していただいた。



職員の声

- ◆ サロンを始めたことで、地域の方が気軽に出入りして下さるようになった
- ◆ 地域住民同士がつながる場として提供できている

参加者の声

- ◆ 喫茶コーナーは関係者しか利用できないと思っていた
- ◆ 以前は敷居が高く入りづらかったが、サロンを利用するようになり入りやすくなった

法人名

社会福祉法人 羽島郡福寿会

施設名／特別養護老人ホーム リバーサイド笠松園

本部所在地／羽島郡笠松町田代621-1

経営施設種別／特別養護老人ホーム、短期入所生活介護、デイサービス、居宅介護支援

職員数／95名



笠松町

子どもたちと参加者と保育士がつくる 楽しいひととき

～毎月開催「かさほサロン」で地域とのつながりを～

取組の目的や経過

近年、希薄になりがちな地域とのつながりを取り戻すきっかけになればという思いや、社会福祉法人として、地域の子育て、家庭への支援に向けて何かできないかという思いから、民生委員児童委員や保育士や笠松町社協と協力し、平成26年度に「かさほサロン」がスタートした。

取組内容

サロンには主に地域の高齢者が訪れる。お茶を飲んだりレクリエーションや工作を行っている。保育室にも訪問し、子どもたちとも交流。七夕や夕涼み会、お彼岸参り、クリスマスなど園の行事にも参加、園児と参加者の触れ合い、楽しめる場となっている。



▲七夕の飾りの作り方を真剣な表情で教わる子どもたち



主な経費：
飲み物代、工作やレクリエーション等の材料代

主な財源：
1名100円の参加費、
法人独自財源



取組の効果

サロンの参加者からは、子どもたちの姿を見たり、一緒に触れ合うなかで、子どもたちから元気をもらうことができるという声が挙がっている。地域の方と子どもたちのかかわりが増えて自然にお互いに挨拶が交わせるようになったり、地域に見守られている保育園となっている。

また、サロン運営をきっかけに、全職員に認知症サポーター養成講座を受講するに至った。



保育士の声



- ◆ 保育士一人ひとりが、サロン参加者の方のやさしく子どもたちに接する姿を見て、日々忘れがちな「いたわりの心」に改めて気づかされた
- ◆ 地域住民同士がつながる場として提供できている

参加者の声



- ◆ サロンをきっかけに、地域の人たちとのつながりが一層深まった
- ◆ 工作をしていると子どもたちが親切にお手伝いをしてくれて楽しい

法人名

社会福祉法人 笠松中央福祉会

本部所在地／羽島郡笠松町西宮町44-2

経営施設種別／保育園

職員数／24名



岐阜市

関係団体とともに創る地域交流行事の実践

～「夏祭り」などの行事を通じた地域と施設の絆～

取組の目的や経過

法人開設当時の施設は開発途上の地域にとってシンボリックな存在であったが、地域で住民同士が交流できるような祭りなどの行事はなかった。そこで、地域の住民（特に子ども）と利用者との交流の機会を創出する機会をつくるべく、各種行事を企画、開催した。



▲昭和57年から続く夏まつりでは100円などで提供する模擬店が並び



▲4階建の施設の屋上からは大きな花火と金華山が一望できる

取組内容

夏まつりは、特別養護老人ホーム開設（S54）後まもなく、毎年8月に施設内外において実施している。当初は小規模であったが徐々に地域の関係団体（自治会、民生委員、老人クラブ、交通安全協会、消防団等）やボランティアの方の協力が得られるようになり、地域と施設の信頼関係を深めるうえで大切な行事となっている。花火鑑賞会は、グループホームの開設（H15）後すぐ、毎年夏季の花火大会の日

に施設の屋上階を開放、地域交流行事として開催。
毎年100名以上の地域の方の参加があり、地域との絆を深め高齢者福祉施設の理解も深まっている。

主な経費：
人件費・食材費等

主な財源：
法人独自財源



取組の効果

地域交流行事を行うことで地域住民に施設の役割を広く認知してもらうことができ、地域住民にとっては身内の介護相談がしやすくなったなど信頼関係を深めることができている。また、交流行事に参加された方が求人に応募することもあるなど思いがけない効果があった



▲1月には餅つき大会も開催



職員の声

- ◆地域と施設をつなぐ有意義な地域協働イベントであり、子どもたち同士の交流や親子の絆を深める場となっている。参加者の表情を見るだけでやる気がわく。
- ◆定期的に関係団体と交流することで災害など緊急の際の支援がスムーズに行える。

参加者の声



- ◆毎年、子どもの夏休みに行く行事のひとつで、近所の人とも交流できる。
- ◆地元の方々が出店され、どれもおいしいのでたくさん買ってしまおう。

法人名

社会福祉法人 千代田会

本部所在地／岐阜市河渡2-45

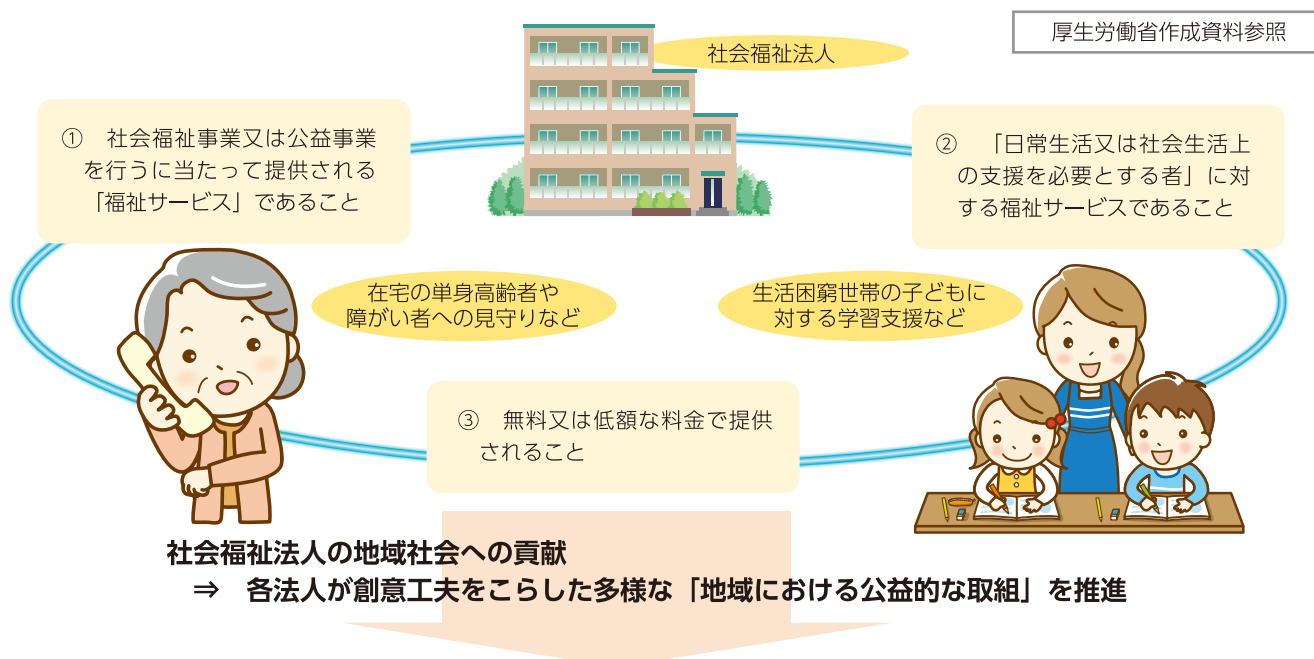
経営施設種別／特別養護老人ホーム、ショートステイ、
ケアハウス、グループホーム、小規模多機能型居宅介護

職員数／86名



社会福祉法人による「地域における公益的な取組」の推進について

平成28年改正社会福祉法において、社会福祉法人の公益性・非営利性を踏まえ、法人の本旨から導かれる本来の役割を明確化するため、「地域における公益的な取組」の実施に関する責務規定が創設されました。



地域において、少子高齢化・人口減少などを踏まえた福祉ニーズに対応するサービスが充実

平成30年1月23日の通知改正^(※)により、「地域における公益的な取組」の解釈の明確化が図られました。無料または低額な料金で提供されることは基本としつつも、支援が必要な人が直接的のみならず、間接的に利益を受けるサービスや取り組みについても一定の範囲で対象に含められることとなりました。

(※) 社会福祉法人による「地域における公益的な取組」の推進について（厚生労働省社会・援護局福祉基盤課長通知 社援基発0123第1号/H30.1.23）

社会福祉法人の現況報告書へ「公益的な取組」の記載を

社会福祉法人による取組の実施にあたっては、地域住民の理解を深め、その協力を得ていくことが必要であることから、地域住民に対して積極的に法人の取組内容をPRしていくため、「現況報告書」や法人ホームページ等への積極的な記載をすることが重要です。（H30.3.1開催 社会・援護局関係主管課長会議資料より一部抜粋）

現況報告書（平成〇〇年4月1日現在）

11-2. うち地域における公益的な取組（地域公益事業含む）（再掲）

①取組類型コード分類	②取組の名称	③取組の実施場所(区域)
	④取組内容	
地域における公益的な取組	地域の子育て家庭の相談支援	岐阜県〇〇市及びその近郊
①（地域の要支援者に対する）	園庭開放・近隣地域の子育て家庭を対象にした育児相談	
地域における公益的な取組	配食サービス	岐阜県〇〇市
②（地域の要支援者に対する）	高齢者世帯に夕食を低額で配り安否確認を実施	
地域における公益的な取組	地域の要支援者に対する資金や物資の貸付・提供	岐阜県〇〇市及びその近郊
④（地域の要支援者に対する）	子育てひろばの設置	
地域における公益的な取組	既存事業の利用料の減額・免除	岐阜県〇〇市及びその近郊
③（地域の要支援者に対する）	介護保険サービス利用者負担軽減制度	
地域における公益的な取組	認知症カフェ	岐阜県〇〇市及びその近郊
⑥（地域の要支援者に対する）	認知症の方やその家族、地域住民等が集い、介護の悩み等を語り合う場を提供	

岐阜県内社会福祉法人の地域における公益的な取組一覧

「地域における公益的な取組」に関するアンケート調査報告書より抽出

社会福祉法人岐阜県社会福祉協議会において、平成29年9月に県内各社会福祉法人の現状把握及び意見収集を目的に実施。255法人のうち130法人より回答があった（回収率50.98％）。

分類	項 目	件数
① 地域の要支援者に対する相談支援	金融機関を会場にした介護相談会の開催	1
	高齢者よろず相談窓口の開設	2
	介護相談会の開催	1
	子育て相談の実施	6
	子育てに関する情報の提供	1
	認知症カフェ開催等認知症の理解促進と相談	10
	認知症に関する相談窓口の開設	1
	児童養護施設退所者への相談支援	1
② 地域の要支援者に対する配食・見守り・移動等の生活支援	施設における健康体操の開催	1
	ひとり暮らし高齢者対象保育園での会食の実施	1
	ひとり暮らし高齢者見守りサービスの実施	2
	地域の高齢者等対象の移動販売の実施	1
	地域の高齢者等対象の配食サービスの実施	2
	地域の高齢者等対象の買い物ツアーの開催	1
	地域の障がい者向け入浴サービスの実施	2
	留守家庭児童の見守りサービスの実施	1
	職員以外の子どもの保育の受け入れ	1
	引きこもりの方への就労支援	1
	ひとり親家庭の中学生への学習支援	1
	ひとり親家庭への見守り、送迎	1
③ 権利擁護支援	成年後見制度へのつなぎ支援	1
④ 資金や物資の貸付・提供	低所得者向け住宅支援	1
	生活困窮者向け食糧支援	1
	自立援助ホーム利用者への金銭的支援	1
	児童養護施設退所者への緊急的居住支援	1
⑤ 利用料の減免	補助対象外の延長保育の実施	1
	介護保険事業の利用者負担軽減の実施	8
⑥ サロン活動	サロン活動等地域住民の居場所づくり	2
	地域のサロンでの演奏の実施	2
	保育園や特養での高齢者サロンの開催	3
	子育てサロンの開催	4
	未就園児の親向けサロンの開催	2
⑦ 地域住民に対する福祉教育	介護予防教室の開催	3
	介護者教室の開催	1
	ボランティア養成講座の開催	1
	お金の使い方学習講座の開催	1
	シニアクラブでの勉強会（転倒予防等）の開催	2
	紙おむつ勉強会の開催	1
	福祉委員への施設見学勉強会の受け入れ	1
	認知症サポーター養成講座の開催	1
	移動支援従事者養成研修の開催	1
	福祉研修会の開催	2
	福祉出前講座の開催	1
	こころの健康講座の開催	1
	就業体験及び作業実習の受け入れ	1
	障がい者向け介護初任者研修の開催	1

分類	項 目	件数
⑨ その他の公益的な取組	生活困窮者宅の修繕やゴミ片付け	1
	健康体操の開催	1
	施設の会議室等を地域の行事に開放	2
	四季のコンサートの開催	1
	福祉避難所としての防災備蓄	5
	地域の祭りへの機材提供、人員派遣	1
	喫茶室でのミニコンサートの開催	1
	地域の高齢者等の祭りへの参加支援	1
	寄席の開催	1
	施設周辺のごみ拾いの実施	1
	特養での祭りの開催	4
	地域住民への焼きサンマの提供	1
	障がい者アート展の開催	2
	セルフ施設利用者の宿泊体験場所の提供	1
	障がい者・高齢者向け旅行の企画	1
	移動動物園の開催	1
	保育園の園庭開放	5
	おもちゃ図書館の運営	1
	フリーマーケット等イベントの開催	1
	保育園での祭りの開催	2
	地域の高齢者と園児の清掃活動	1
	地域の高齢者と園児の誕生月会での交流	1
	未就園児も対象のミニ運動会の開催	1
	地域サロン参加者と園児のグランドゴルフ交流	1
	カルチャースクールの開設	1
	保育園でのさつま芋掘り	1
	小学生向け歴史探訪	1
	未就園児向け七夕会や給食試食会の開催	1
	地域行事への鼓隊の参加	1
	小学1年生と園児との交流	1
	地域住民参加の保育園での茶道教室	1
	高齢者の積極的雇用	1
	障がい者の積極的雇用	2
	刑務所出所者等の協力雇用主の登録	1
	障がい者の実習生の受け入れ	1
	家庭裁判所の補導委託制度の受託	1
	更生保護事業における社会貢献活動の施設提供	1
	空き店舗での食堂やセルフ製品の販売	1

社会福祉法人の現況報告書 公益的な取組類型コード分類

- ① 地域の要支援者に対する相談支援
- ② 地域の要支援者に対する配食、見守り、移動等の生活支援
- ③ 地域の要支援者に対する権利擁護支援
- ④ 地域の要支援者に対する資金や物資の貸付・提供
- ⑤ 既存事業の利用料の減額・免除
- ⑥ 地域の福祉ニーズ等を把握するためのサロン活動
- ⑦ 地域住民に対する福祉教育
- ⑧ 地域の関係者とのネットワークづくり
- ⑨ その他

社会福祉法人 岐阜県社会福祉協議会

〒500-8385 岐阜市下奈良2-2-1 岐阜県福祉・農業会館内
TEL : 058-273-1111 (代表) FAX : 058-275-4858

